



芦屋町図書館
イメージキャラクター
よむにゃん

2月

■休館日 6日月、13日月、20日月、24日金、27日月

掲載の催しは新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、変更・中止となる場合があります。

定例おはなし会

とき 出演・催し

- 1日 赤ちゃんおはなし会たち
- 11日 話しポケット
- 12日 にじの会
- 18日 おはなしトントン
- 26日 にじの会

※時間はいずれも午前11時から

▷ところ おはなしのへや



芦屋町図書館
(☎223-3677)
開館時間
午前10時～午後6時



芦屋町図書館
ホームページ
※資料検索や
予約などが
できます。

おたのしみ上映会

- ▷とき 3月5日 午後2時から
(上映時間85分)
- ▷ところ 図書館多目的室
- ▷上映作品 「ロイヤルコギー レックスの大冒険」
- ▷定員 30人 (事前申し込み先着順)
- ▷申し込み 2月1日 10時から、電話または図書館カウンターで受け付け
- ▷内容 バッキンガム宮殿に住む、エリザベス女王のトップドッグのレックス。ある日、晩餐会を台無しにしてしまったレックスは、仲間のチャーリーとともに宮殿を抜け出すことに！

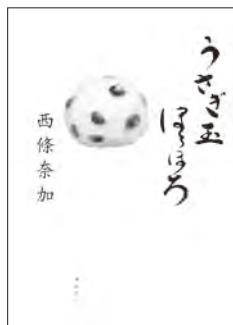


2023年本屋大賞ノミネート作品発表特集

2004年に始まった本屋大賞は「全国書店員が選んだいちばん！売りたい本」として、書店員の投票で選ばれます。昨年の大賞は「同志少女よ、敵を撃て」でした。本屋大賞は、「ある男」や「流浪の月」など、ノミネートされた作品が映画化され、注目を集めています。4月12日 大賞発表までに、気になる作品から読んでみませんか。

新着図書

注目の一冊



うさぎ玉ほろほろ
西條 奈加 著

親子三代で切り盛りする江戸麹町の評判の菓子舗「南星屋」には、味と人情に惹かれやって来る客が列をなす。麹町を大火が襲った夜以来、姿を見せなくなった気のいい渡り中間を案ずる一家だったが、ある日、思わぬところから消息が届き――。

【一般書】

しょうとうむらいどう まつよい
書楼弔堂 待宵
家康の海
罪の境界
ワンダーランド急行

京極 夏彦 著
植松 三十里 著
薬丸 岳 著
荻原 浩 著

【児童書】

どすこい！
ガリバーのむすこ
それで、いい！
2番めにすき
おばけのしかえし

もりの
森埜 こみち 作
マイケル・モーパール 作
いそ 儀 みゆき 作
吉野 万理子 作
内田 麟太郎 作

俳句・短歌

● 浜木綿俳句会

園児みなお部屋に戻りし帰り花

本堂の江戸の組子冬日影 池田千恵子

酔屋寒し一子相伝三百年 小川 雪野

墓域てふ大日溜り冬の蝶 吉住 利枝

● 芦屋俳句クラブ

ほうじ茶に始まる一日冬至かな 池田 幸利

年の暮文箱に古りし肥後の守 田尾三千枝

初雪を乗せて介護のバス走る 縄田 恵子

石畳道は古刹へ花八手 仲山クニ子

桐山 美枝

● 水荃短歌会

七五三慣れない着物にぐずつきて 後藤 征子

抱っこせがみし子は成人となる 麻生 清子

生前の母一番の気に入りの 宮崎佐代子

七年を娘の務めたるデパートの 折紙のごと着物をつたむ

背中心衿先袖もきつちりと 村上一恵

75 広報あしや 2023.2 ⑥

スキンシップの大切さ

皆さんは、子どもと遊んでいますか、手をつないでいますか。親子のスキンシップは、子どもの心だけでなく親の心にも栄養を届けてくれます。今回は、「親子のスキンシップ」を紹介します。

子育てをしていくうえで、親子間のスキンシップは愛情表現の一つの手段としてとても大切なことです。肌と肌との触れ合いは、子どもの心をリラックスさせる作用があります。子どもは、親の肌の温かさを感じ、「愛されているんだ。守られているんだ」という気持ちで満たされ、心が落ち着きます。スキンシップで愛情確認ができれば、親子間に信頼関係が生まれ、親子の絆も深まっていきます。

最近の研究では、スキンシップをとると人への信頼や愛情を感じてオキシトシンというホルモンが



分泌されることが分かってきました。オキシトシンには、**①不安が減り、心が安定する**、**②好奇心が育つ**、**③学ぼう力が育つ**、**④ストレスに強くなる**、**⑤痛みがやわらぐ**などの効果があります。

また、実際のスキンシップには、**①静かなスキンシップ**＝歌を歌う、寝る前のお話など、**②活動的なスキンシップ**＝高い高いやくすりっこなど、**③気持ちのスキンシップ**＝子どもと一緒に遊ぶなどの3種類があります。状況に応じてスキンシップを使い分け、無理のない形で取り入れることが大切です。

スキンシップをとおして愛されたという経験は、幼少期だけでなく、大人になっても計り知れないほど大きな効果をもたらします。

また、お父さん、お母さん以外にも、タイミングに応じておじいちゃんやおばあちゃん、親戚、地域の人などとのスキンシップも大切な時間だと言えます。スキンシップは、心がこもっていれば短い時間でも効果が、子どもにとっても大人にとっても良い影響を与えます。

無理をせず優しく触れ合い、日常の中でのスキンシップを大切にしていって取り組んでみましょう。



差別をなくすために 第452号

芦屋町人権・同和教育研究協議会
△問い合わせ 社会教育係
(☎ 2 2 3 - 3 5 4 6)



人の視線

山鹿小学校6年 松岡 愛実

私の祖父母の家は大分県にあります。コロナ禍になり、なかなか帰省することができなくなりました。もちろん感染のリスクもありますが、祖父母は「近所の目が気になる」と言うのです。私にはこの言葉の意味が分かりませんでした。

周りの人に聞いてみたり、自分で調べたりしてみると、コロナ差別というものがあると知りました。コロナに感染した人をはじめ、医療従事者や感染者の数の多い地域から来る人に対して、よく思わない人がいるということです。これを知って、祖父母は私たちに帰省してほしくなかったのだと初めて気づきました。

なぜ、このようなことになってしまったのだろう。私は疑問に思いました。目に見えない感染症というおそろしい病気に対して、誰しも心配や不安があるのだと思います。しかし、その心配や不安が差別につながり、誰かを傷つけているのはおかしい気がします。

自分や家族がコロナにかかりたくはないのは誰もが思っています。しかし、いつ誰が感染するかわかりません。もし、自分や家族が感染して誹謗中傷を受けたらどうでしょう。一生けん命働いてくれている医療従事者が、差別されることによって仕事ができなくなって困るのは誰でしょう。

目にみえない感染症だからこそ、偏見やまちがった情報に左右されず、正しい知識と判断力でのりこえるべきだと思います。

コロナのない、差別もない世界で、また祖父母に会いに行きたいです。

※この記事は、町内の小中学生が「人権」をテーマに書いた作文で、提出された作文の中から芦屋町人権・同和教育研究協議会が選考したものを掲載しています。

